

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070700347		
法人名	館林衣料株式会社		
事業所名	グループホーム多々良の里		
所在地	群馬県館林市木戸町539		
自己評価作成日	令和5年8月19日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看取り、入隊所等経験の中で、施設長の「皆家族」「最後の人生を楽しく過ごしてほしい」という強い思いに近付くよう日々心掛けています。  
利用者への思い、家族の意向に耳を傾け、常に工夫・改善策を全員のチームワークで取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和5年9月20日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は利用者にとって一番の楽しみであり、要介護状態や重度化を予防するためにも重要である。その食事を開設以来手作りで提供している。レトルト食品に変えることや、専門業者に依頼する等の話し合いもあったが、職員の意向で現在も変わらず、職員による食事作りを継続している。食べ慣れた食材を家庭の味付で提供することによって、利用者は事業所のモットーでもある「安心とやすらぎ」を感じながら生活することができる。運営者、職員の地道な取り組みがうかがえる。また、褥瘡ができた利用者を医師や看護師の力を借りて、処置方法や経過を個別記録で共有しながらチームで取り組み、3ヶ月をかけて完治に導いた経緯がある。難しい褥瘡治療をやり遂げたことで、職員は今後自信を持って支援にあたることができ、事業所の実績の一つを築いたといえる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当社の4つの理念に基づき、「言葉、絆、家族」をテーマに当てる下ケアに結び付けている。	「人格の尊重と生命の尊厳を守る」という基本理念に沿って、利用者に丁寧にわかり易く声かけをすることで思いや要望を引き出し、利用者の自立を助け、楽しい生活を送る支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染予防として、地域の方との交流やイベントを控えている。野菜など提供して下さっている。地域との繋がりは残っている。	コロナ禍で地域の祭事が中止になったり、清掃の声もかからなくなり、つきあいを続けることが難しい状況にあったが、近隣の人から野菜が届くこともあった。今後は地域交流の再開を期待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談受付や見学は、出来るようになってきている。(外観)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3火曜日14時が定着し、多くの方が参加して下さり、積極的に意見交換し、サービス向上に活かしている。	コロナ禍で運営推進委員宛に書面報告をしていたが、9月から通常の家来、区長、民生委員、老人会、市担当者等が出席し、利用者状況や事業報告等、議題について意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査更新時やケアマネージャーが更新代行し、質問は電話などで行い、連携を図っている。	ケアマネージャーが認定調査の立会いや、介護保険の更新代行をしている。事故報告やコロナ感染症について必要な届けをしている。ケアマネ研修や実習研修の勉強会にオンラインで参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は出来るだけ拘束にならない様心掛け、出る時は職員と一緒に行動する。身体拘束の場合、家族との話し合いを持っている。	玄関はオートロックだが、利用者に散歩や外に行きたいという希望がある時は職員が付添っている。3ヶ月ごとに身体拘束、虐待についての会議を開く他、勉強会として職員が動画を視聴している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待については、日頃から注意しながら、常に優しい声掛けができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後も案内が来たら、参加を心掛けます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に際し、契約書は事前に家族に持ち帰っていただき、理解・納得した説明の上、契約を交わすようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時は、思いや意見を気軽に話が出るようにしている。また、2カ月に1度ミニ便りで近況報告している。	家族からの苦情は訪問時に聞き、決まった窓口で対応している。何でも話せる関係性があり、いろいろな意見が出ている。利用者からの意見や要望は日常的に職員が耳を傾け、支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミニカンファレンスを毎日行っている。意見や提案を出してもらおう。	毎日、朝礼でミニカンファレンスを行い、利用者への支援等について話し合い、コロナ会議では外食の是非を話し合う等、職員の率直な意見や提案があり、運営や支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月毎にモチベーションのあり方のポスターを掲示し、そのお題に対する意欲を記入し提出している。 指定研修や資格を取ることで、手当を付与している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などで学べるよう提供し、新聞記事や行政からの案内などで回覧し、各自が学ぶようにしており、今年度も多数研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で行えていない。社内での1階と2階との人事交流はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを知ることで、安心して生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何事も話し合える環境づくりに努め、思いや意見を聞くことで信頼関係が出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からよく聞き取り、何を必要としているかを見極め、支援できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、新聞折りなど、利用者が出来ることは、職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係性は最も大切なことなので、家族の意向を伺いながら本人のケアにあたっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会の日時等、事前予約をお願いし行っている。玄関ホールでの面会の為、1階2階の面会時間が重ならない様、気を付けている。	利用者の様子を伝えるため、家族に写真付きの通信を送り、家族から状況が分かり有難いという返事をもらっている。面会は事前予約制で玄関、窓越しで実施し、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新聞や雑誌など譲り合う等、お互いに気配りをしている様子がある。 利用者が孤立しないように職員が目配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	思い出に残る写真を送らせて頂いたり、近況を聞く等、関係性を保つようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の意向を伺いながら、その人の希望に添った日常である為に、観察しながら検討している。	職員は利用者とは雑談をしたり、日々の生活の中で何を求め、何を好むのかを探りながら、利用者の思いや意向を把握することに努めている。また、面会時に家族からも意向を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴などを伺い、毎日の生活の中からその人を良く知ることで暮らし方を工夫し、サービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜問わず、本人の思いに添うよう、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の行動を見て職員間で話し合い、意見を反映させた中で、介護計画を作成している。	毎月、また、ミニカンファレンス時に職員全員でモニタリングをしケアマネジャーが意見をまとめている。介護計画は3ヶ月ごとに見直している。計画は面会時に家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個々の観察記録に記入し、1週間時系列で全職員が目を通すようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや、美容師の出張など、サービスに取り組んでいる。 YOUTUBE取り入れたり、カラオケ取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、出来ることをしています。散歩は施設敷地内での庭を一回りしたり、お花見の頃は車窓から桜を楽しんでいただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望優先で、往診医利用となっている。かかりつけ医の範囲を超える病院は、家族送迎であったり、職員が連れて行っている。	入居時に往診してもらえらる協力医を主治医に変えてもらっている。往診は月2回とし、専門医への受診は家族、職員が付添っている。必要に応じて訪問歯科に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護師と連携を取り、利用者の状況を医師に報告することで往診受診が可能になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	館林厚生病院等を利用しているが、普段より空き情報交換し、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の希望等、現段階で聞き取りを行って、書類にサインを頂いている。	現在、対象利用者はいないが、看取りの事例はある。看取りの際は主治医が家族に状態の説明をし職員は判断を仰ぎながら、会議で支援の方向性を決め実施している。看護師とも連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が消防署などで行われている救急救命の講習を受け、会議時話し合い、共有している。看護師と連携をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期加算訓練とともに、地震・水害も想定して、地域との協力体制作りも必要と考え、推進会議でも取り上げている。1・2階の合同イベント時等に水害想定訓練も兼ねて行っている。	年2回の自衛消防訓練を実施している。水害地域にあり、2階への垂直避難を職員間で共有し、地域、近隣住民に緊急時の応援を依頼している。3日分の水、食糧品、排泄用品の備蓄をしている。	ハザードマップにより水害地域に該当することから、毎月自主訓練を実施し、利用者、職員の生命を守るため、訓練の回数を重ねていく取り組みを検討してはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない声掛けを行うよう心掛け、実践している。	利用者一人ひとりを尊重し、丁寧でわかりやすい声かけをすることで、利用者が自ら話しができるよう支援している。また、人生の先輩であり、目上の人に相応しい言葉遣いを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望をされた際、出来る限り実践できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の希望を汲み取るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことが出来る利用者様にはお願いしているが、選ぶことができない利用者様は厳しい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知機能面の低下に伴い、一緒に準備など出来ていない。	食材から購入し、職員が手作りしている。温かい食事の提供を心がけている。利用者は「お昼はまだかい。」と楽しみにし、玉ねぎの皮むき等できることを手伝う利用者を見守り、支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や主治医の意見の元、食事量や水分量を調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、声掛け、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位保持が厳しい利用者様も便座で排泄を行っていただくよう支援している。	自立者が多く、トイレでの排泄を基本とした支援に取り組んでいる。夜間はおむつを使用したり、日中同様トイレに行く利用者を誘導する等、個別に対応している。パットのあて方の研修も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた運動の働きかけは、参加できない利用者様には出来ていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日は決めてしまっている。午前中の中で、個人のタイミングで声掛け、了承いただけない方は、振替など行っている。	利用者の希望に沿って週2回(月木、火金、水土)実施しているが、拒否がある場合は曜日を変え、本人の気持ちを重んじた対応をしている。入浴剤を使い、利用者が入浴を楽しむ工夫をしている。	入浴予定日に捉われず、昨日入浴した利用者にも「今日はどうですか」と尋ねてはいかがか。希望が出れば支援してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人で休みたいタイミングで気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後、処方服薬表を職員1人1人が読み、理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルや利用者様の好みの動画などをテレビのYOUTUBEなどで流している。(2階)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響もあり、なかなか外出支援が出来ていないのが現状である。	コロナ禍でこれまでのような外出はできないが、散歩をしたり、庭を歩き回ることにはしている。また、日向ぼっこや気分転換のため屋外に出ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が無くなったなどになってしまわない様、事務所にて預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を借りたい利用者様の意見を尊重し、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や、コルクボードに季節の飾りつけを行っている。	献立表、大き目のカレンダー、時計の他、季節の飾り物、折り紙作品等が掲示されている。清浄機付きのエアコンを設置し、感染症対策や快適さを考慮した空間作りに努めている。各種の本もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになれる場は難しいが、気の合った利用者同士の席順などは考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なもの以外、出来る限り本人の好みに合わせたものを置くようにしている。	入居時に馴染みの物を持ち込むことを説明し、寝具や筆筒を持込んでいる。携帯電話を持って家族とやり取りしている利用者もいる。読書をしたり、自由に過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出きることを活かして、安全な生活が送れるよう支援しているが、自立した生活までは厳しい。		